

深海性クジラ打ち上がる

白浜・番所崎 「台風の影響か」

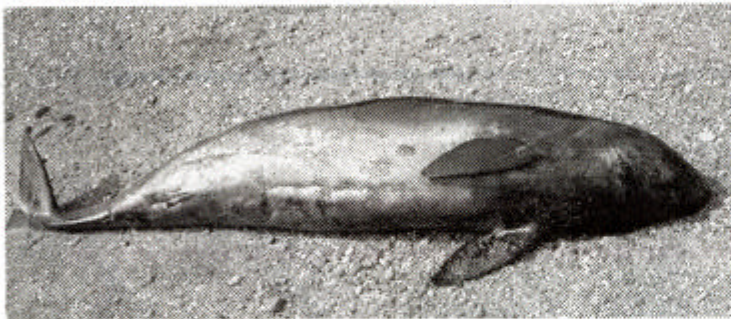
白浜町臨海の番所崎で26日朝、クジラの死体が砂浜に打ち上げられているのを、同町臨海、京都大学瀬戸臨海実験所の院生が見つけた。

同実験所によると、体長約2・4メートル、重さ200キログラム(推定)のオガワコマッコウ(コマッコウ科)とみられる。紀伊半島西岸でオガワコマッコウが打ち上げられるのは今回が初めて。50年間で白浜町内に打ち上げられたクジラは、今回を含めて9種類18頭という。

田辺湾のクジラ類の調査をしている同実験所の久保田信助教授(51)は「水深200〜300メートルの大陸棚の端に生息している深海性のクジラで、なぜここに打ち上げられたのか分からない。連続した台風の影響かもしれない」と話している。

クジラの死体は27日朝、台風16号の接近に伴う高波で海に流されたが、同日午前11時過ぎに再び番

所崎に漂着した。しかし、再度流される可能性が高く、同実験所では再び死体が流された場合、目撃情報などの提供協力を呼びかけている。連絡先は同実験所(代表0739・42・3515)まで。



浜辺に打ち上げられたクジラ
(26日、白浜町臨海の番所崎で)